

区民の皆様へ

三輪地区



第68号

住民自治協議会だより

令和8年1月1日発行

発行者 三輪地区住民自治協議会会長 藤田 彰
広報委員会委員長 花崎 秀紀

事務局 三輪公民館内 電話 225-9567 FAX 225-9647

E-mail: miwa.jichikyo@theia.ocn.ne.jp

H P: <https://www.miwajichikyo.com>



公民館部会

予報は雨でも 持ちこたえて 大盛況～ ひまわり広場

区民広場委員会 委員長 金井 和彦

11月9日（日）三輪自治協のお祭り「ひまわり広場」を開催しました。天気予報は傘マークでしたが、午前中はなんとか持ちこたえ、大勢の皆さんにお集まりいただきました。

昨年からコラボを開始した、公民館部会主催の「地域と学校の交流会」も同時開催し、学校紹介や歌に演奏、踊りで三輪公民館の大ホールは立ち見が出るほどの盛況でした。

お祭りの内容は、三輪通り商店会さんによる出店（三輪通り縁日）、消防第7分団さんの消防車見学、お弁当などのテイクアウト、健康チェック、野菜販売、スタンプラリー、綿あめ販売、長野県立大生によるキッズコーナー（スライム作り）、水ヨーヨー釣り、喫茶コーナーを実施しました。

昨年までは長野女子高校さんが参加されていましたが、代わりにサミットアカデミーの生徒さんが仲間入りし、ブースも大賑わいでした。初参加といえば、野菜広場では小田切自治協さんの他に中条自治協さんも加わり、前日のやきいも大会でお世話になった、篠ノ井忠富農園さんにも新鮮な野菜を販売していただきました。野菜広場は毎年大人気で、販売開始前に長い行列ができていました。こども食堂でお世話になっているおやきや千代子さん、新規開店予定のDeafCafeさんにも新たに協力いただきました。

三輪地区にお住いの人々が集まり、楽しく交流できる場を提供する、という目的は果たせたかなと思っています。ご協力いただきました皆様、それぞれの広場で活躍していただきましたスタッフの皆様に御礼申し上げます。



区長部会

みんなで焼いも 甘くて心も身体もほっこり 焼きいも大会

ボランティア推進委員会 委員長 矢島 俊一

11月8日（土）午後1時から、三輪自治協ボランティア委員会主催による焼き芋大会が絶好の焼き芋日和のなか行われました。

チームやきいもと名付けられた、ボランティアの方々が自治協の黄色のジャンパーに身を包み12時30分には集合し準備を行い集まった参加者と一緒に火入れ式を行いスタート。

和太鼓を演奏する七福太鼓の景気づけの演奏により、徐々に参加者が増えていき、美和公園は久し振りの賑わいとなり当初予想は、5～60名程度が集まれば良いかなと思っていましたが、なんと120名を越える子どもたちとその親御さんが集まり、用意した焼き芋用の芋を全ての参加者にくばる事ができるか心配になるほどでした。

とりわけ私の食べる分が残っているか、お昼を食べずに準備に追われて腹ペコ状態の私にとっては大問題で思わず担当者に確認！

焼き芋は、火床がきっちりできるまでの時間と芋を火床に入れてから焼きあがるまでの時間が手持ち無沙汰になるので、そこで出番の津軽三味線「花岡社中」の5人が三味線演奏でさらに盛り上げていただき、火入れ式から1時間20分、ようやく焼き芋完成。みんなで分け合っていました。大変おしゅうございました。参加した全ての人が満足できる大会になったと思います。

また、ボランティアとして参加いただいた「チームやきいも」のメンバーの皆様の協力に感謝申し上げます。来年も行うかどうかは、これからボランティア委員会で話し合いをして決めたいと思いますが、ともあれ、初めての企画だったにもかかわらず「大成功!」。皆さん大変ありがとうございました。



荻原市長聴いて～ 地域の困りごとを! ようこそ市長室へ

8月22日（金）、市の「市長応接室」で「ようこそ市長室へ」を実施しました。三輪自治協からは、藤田会長はじめ代表の区長4人と事務局長の計6人が訪れ、長野市側は、荻原市長のほか関係部署の部長・課長など計9人が出席し、地域の課題について懇談しました。



今年度は、「地域の防災力向上に対する支援の拡充について」をテーマに、具体的には、地区内の指定避難所や場所の増設、地域公民館建替えなどにかかる経費への支援の二点について、意見交換を行い、地域と行政相互で問題・課題を共有しました。荻原市長から、「本日は、防災関係を中心にご意見をいただいた。特に、地域公民館の課題については、未来の地域公民館のあり方や公共施設の活用等も含め、自治協と一緒に長野市全体で考えていきたい。」との言葉もあり、終始穏やかな雰囲気の中で懇談が終了しました。



足を運んで 行ってみて はじめて真実がわかる 視察研修

10月31日（金）～11月1日（土）の2日間、川中島地区自治協の皆さんと一緒に能登方面へ視察に行ってきました。皆さんもご承知のとおり能登半島は、令和6年1月1日に「能登半島地震」が発生し、また、同年9月21日から23日にかけては、記録的な豪雨（能登半島豪雨）に見舞われるなど、度重なる災害で甚大な被害に見舞われた地域です。

視察の目的は、実際に被害に遭われた現地に足を運び、目で見て耳で聞き、そして、気づきを持ち帰って、地域の防災・減災対策に活かそうと計画しました。



1日目、のと鉄道に乗り、地震発生時の生々しい話を語り部の方からお聞きました。その後、七尾市役所を訪れ、地震発生時の状況や現在の状況、避難所での対応などについて市の担当の方からお聞きました。特に避難所運営の話の中で印象的だったのは、「避難されてくる方はすべて被災者でお互い様のはずだが、実際

はお客さま意識で過ごされる方がいる。集まった皆さん全員で力を合わせて避難所運営を行うことがとても大切である」との話を聞き、結束力や支え合い等が有事の際には大切なんだと改めて確認することができました。また、2日目には、地震で約300軒の建物が焼失した輪島市の「朝市」の場所や復興に向け頑張っておられる「(株)奥能登元気プロジェクト」の代表である奥田和也さんに話を聞くなど、被災の現実を体現してきました。今回の視察研修から学んだことを、今後の各区や三輪地域全体の防災にしっかり活かしていこうと思っています。



安全・安心部会

特殊詐欺から身を守るために 防犯講習会

9月18日（木）、長野中央警察署防犯指導係の高橋将人さんをお迎えし、防犯講習会を開催しました。今年度は、「特殊詐欺の被害に遭わないために」をテーマに、年々手口が巧妙になっている特殊詐欺の現状や被害に遭わないための対策などについて、具体的な事例を交えながら、お話をいただきました。

「電話でお金が出たら詐欺と疑う」「ナンバーディスプレイを設置して、知らない番号からの電話には出ない」「+（プラス）から始まる番号は国際電話なので怪しい電話と疑う」など、被害に遭わない、身を守る術を50人の参加者全員で確認しました。



公民館部会

打って、投げて、転がして…スポーツって楽しいね わくわくスポーツみわ

三輪地区スポーツ推進委員会 清水 正洋

毎回（今年度は4回実施）、三輪小学校体育館で、協力団体の三輪地区スポーツ推進委員会の主導により「わくわくスポーツみわ」を開催しています。

いずれの回も、まずは体調等のチェックを各自で行い、スポーツ推進員の指導で入念にストレッチを行った後、各自が選んだやりたいスポーツに取り組みます。2時間余りと短い時間ですが、皆さん真剣な眼差しでプレーする一方で、元気な笑い声も時折飛び交うなど、会場内はとても和やかな、楽しい雰囲気に包まれています。

近頃は、若い家族連れが多く、特に小さな児童に怪我などさせないようにと、スタッフ全員で最新の注意を払いながら実施しています。

参加者からは、「久しぶりに身体を動かして、とても気持ち良かった」「また是非とも来たい」などのご意見があり、私たちスタッフも開催の励みにもなっています。

今年度は、ボッチャ、スマイルボウリング、バドミントン、ボール遊びの5種目を準備しましたが、今後は、一人でも多くの皆さまが楽しめるニュースポーツも取り入れながら計画していきたいと思っています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



「手打ちそば」はとても難しく奥が深〜い 男塾 そば打ち講座

9月25日（木）、公民館2階の調理室で、そば打ち講座を開催しました。

講師として、福澤正隆さんをお招きし、実際にお店で提供されている「そば粉」はもちろん、使用する道具も福澤講師にご準備していただくなど、本格的なそば打ちを教えていただきました。

まずは、講師が一通りお手本を披露。その後、各自で講師自らが作成され詳細レシピを見ながら、一工程、一工程、講師のお墨付きをいただきながら、全16行程を経て、なんとか手打ちそばが出来上がりました。

最後の「切り」の工程では、同じ細さで切るのは大変難しく、うどん?のような麺になってしまった方もおられましたが、「打ったそばは格別」と、どこかやりきった達成感と充実感の空気も漂っていました。

自らが打ったそばは、各自お持ち帰りいただき、最後は、講師が打ってくださったそばを全員で美味しくいただき講座は終了となりました。



認知症の方との向き合うキーワードは「愛」と「相互」 いきいき講座 認知症講座

副部会長 坂田 恵美子

9月2日（火）、公民館3階大ホールで、北野病院の認知症看護認定看護師であります中村哲朗さんを講師としてお招きし、認知症講座を開催しました。

お話の内容は、「認知症の症状とは」「認知症の方との向き合い方」「家族が認知症になったらどうするか」などについて、具体的な事例を交えて分かり易くお話いただきました。

認知症の症状には、記憶障害（過去の出来事を忘れる）、見当識障害（時間や場所の認識ができなくなる）、注意障害（集中力や必要な情報に注意を向ける力の低下）、実行機能障害（計画や実行が困難になる）などがあり、誰にでも現れる可能性があるとのことでした。

また、講座の中で特に印象に残ったことは、「認知症の方と相互関係になる」ということです。例えば、「相手のことを知りたい」だけでなく「自分の事も知ってもらう」、「相手に喜んでもらう」だけでなく「自分もたくさん喜ぶ」など、どちら側からも同じような働きかけがあること。そして、自分の想いを伝え、最後は必ず“ありがとう”の「愛」を伝えることが「相互」関係を築くのに大切なポイントであることを学び、とても充実した時間をいただきました。



MIWA ミワコラム Column 三輪を通る古道・中道と和田道

小林 一三（下宇木区）

中道の「中」とは、中央なのか？ 中間なのか？ 何を指して、そう呼称されているのだろうか？

中道は、善光寺と柳原布野を結ぶ通路であり、直線道路であるとされているが、北長野通りから東は、かなりの曲折で到底直線道路とは言いがたい。かつてデリシア三輪店北に四つの石（四ツ石）があり、この石が四ツ石区の地名になったと伝えられている。また、善光寺仁王門があった場所で、その礎石ではないかとされている。しかし、善光寺からは遠く離れていることや一面が大水田地帯（三輪田園）であったことなどを考慮すると仁王門の存在は疑問である。故相原文哉先生は、仁王門ではなく美和神社の三ツ鳥居の礎石ではないかとされていました。それは、この北にある鐘鑄川の架橋が太鼓橋であったことやその先に馬頭観音が祀られていたことなどから、この道こそが神社への参道であり、当然ながら、三輪幹線などは存在しなかったため、荒屋区の神楽は柳原（現 柳町）を通り、この三ツ鳥居をくぐって、太鼓橋を渡り参殿したのではないかと推定されます。

中道の更に南に和田道がある。

善光寺を東に進み木製の淀ヶ橋を南折し、樋下稻荷神社前を東進して柳原（現 柳町）で八紘橋（松林川架橋）を渡り、長野ろう学校南を西和田・東和田と結ぶ道路である。樋下稻荷神社には、多くの旅人を見守ったであろう石造りの燈台が現存しています。

【参考】以前は、荒屋・三輪町・淀ヶ橋は、三輪地区であった。



松林川の八紘橋